

取扱説明書



4 x 8 Bus-Powered USB-C / Thunderbolt™ Audio Interface

ZEN GO

SYNERGY CORE



目次

*各項目のクリックでジャンプします

1.0 製品を使用する前に	3
1.1 システム要件	5
1.2 製品を安全にご利用頂くために	6
2.0 セットアップ	7
2.1 初期設定とオンラインアクティベーション	7
2.2 Windows の設定	10
2.3 macOS の設定	11
3.0 コネクティビティと充電オプション	12
3.1 Zen Go USB のコネクティビティと充電オプション	12
3.2 Zen Go Thunderbolt のコネクティビティと充電オプション	15
4.0 パネル解説	16
4.1 トップパネル	16
4.1.1 Control Menu	17
4.1.2 System Menu	18
4.1.3 その他の Control 機能	19
4.2 フロントパネル	20
4.3 リアパネル	21
5.0 コントロールパネルアプリケーション	27
5.1 メインビュー	31
5.2 Control Panel タブ	40
5.2.1 Monitors & Headphones タブ	41
5.2.2 Digital Outs タブ	45
5.2.3 DAW I/O タブ	46
5.2.4 AuraVerb	47



6.0 afx2daw	52
7.0 製品仕様	53
8.0 カスタマーサポート情報.....	55
9.0 LIMITED WARRANTY POLICY	57



1.0 製品を使用する前に

このたびは Antelope Audio Zen Go Synergy Core をご購入いただき誠にありがとうございます。製品を使用する前に、下記内容をぜひご一読ください。



Zen Go Synergy Core はハイエンドのプロフェッショナルスタジオでのみ使用されている技術を詰め込んだ史上初のバスパワー型デスクトップインターフェイスであり、どこにいても最高のサウンドクオリティへ即座にアクセスできます。Synergy Core のアナログモデルエフェクトの膨大なライブラリにより、正確で個性的なサウンドを実現できます。

超低レイテンシーのレコーディング、高解像度の再生、クリエイティブなビートメイキング、ポッドキャストを手軽に行えるように最適化されており、持ち運びに便利な機能とデザインを備えた当インターフェイスは、スピードと効率を犠牲にすることなく、ツアーや出先でのレコーディングセッションにてその力を発揮することができます。

PC/Mac コントロールパネルアプリケーションは、Zen Go Synergy Core とお好みの DAW とを繋ぐ究極の「仲介役」となります。ユニットの機能を最大限に活用するために、ゲイン調整、シグナルルーティング、エフェクトプロセッシング、基本的なミキシング、メータリングなどのタスクを直感的なシングルウィンドウ環境で処理を行ない、最終的に得られたオーディオデータは、お好みのフォーマットでレコーディングするためにお使いの DAW ヘルパーティングされます。



まずは作業を始める前に「コントロールパネルアプリケーション」の章をよく理解しておくことをお勧めいたします。「クイックスタート」の例もいくつかご用意しております。こちらを事前に読んでいただくことで、Antelope Audio 製品を初めてご使用される方が陥りやすい問題や症状を回避するのに役立ちます。

もし、お困りのことがありましたら、チケットシステムで[弊社のカスタマーサポートチーム](#)にご遠慮なくお問い合わせください。また、YouTube で Antelope Audio のビデオチュートリアルをご参考にさせていただくことも可能です。また、サポートページにある Knowledge Base もぜひご活用ください。あなたが Zen Go Synergy Core での作業を楽しんでいただけることを心よりお祈り申し上げます。

改めまして、この度はご購入いただきありがとうございました。

Team Antelope

オンラインアクティベーション

弊社のオーディオインターフェイスをお使いになる前に、必須のオンラインアクティベーション（製品登録）が必要となります。このプロセスを実行することで、製品保証の有効にする上、特別なソフトウェアパッケージや限定製品オファーへアクセスができるようになります。

製品のアクティベーションを成功させるには、インターネット接続が必要です。



1.1 システム要件

Zen Go USB:

Mac:

2013 年以降生産、USB2.0 以上搭載の Mac
Intel / Apple Silicon 両方対応
macOS 10.14 Mojave 以上（macOS 11.2 Big Sur 推奨）
ストレージ容量：4Gb 以上
RAM：4Gb 以上（8Gb 推奨）

Windows:

USB2.0 以上搭載の PC
Windows 10 64-bit 20H1(v. 2004)以上（最新アップデート推奨）
ストレージ容量：4Gb 以上
RAM：4Gb 以上（8Gb 推奨）
CPU：Intel Core i3™（6 世代 Skylake）以上、または AMD Ryzen 1000 シリーズ以上

Zen Go Thunderbolt:

Mac:

2016 年以降生産、Thunderbolt™ 3 以上搭載の Mac
Intel / Apple Silicon 両方対応
macOS 10.14 High Sierra 以上（macOS 11.2 Big Sur 推奨）
ストレージ容量：4Gb 以上
RAM：4Gb 以上（8Gb 推奨）

Windows:

Thunderbolt™ 3 搭載の PC
Windows 10 64-bit 20H1(v. 2004) 以上（最新アップデート推奨）
ストレージ容量：4Gb 以上
RAM：4Gb 以上（8Gb 推奨）
CPU：Intel Core i3™（6 世代 Skylake）以上、または AMD Ryzen 1000 シリーズ以上



※注意：Thunderbolt™ 4 搭載の Windows PC との互換性はまだ確認されていません。

※注意：Windows では ASIO のみに対応しております。WDM には対応していませんのでご了承ください。

1.2 製品を安全にご利用頂くために

- ネジ、カバー、またはキャビネットを取り外さないでください。内部にはユーザーが修理できる部品はありません。正規のメーカーサービスに修理を依頼してください。
- このデバイスを雨、湿気、またはあらゆる種類の液体にさらさないでください。
- 何らかの液体または異物がデバイスに入った場合は、デバイスを使用しないでください。万が一、異物や液体が製品に混入した場合は直ちに電源を落とし、コンセントからケーブルを抜いてください。異物が取り除かれるか、液体が完全に乾燥してその残留物が完全にきれいになるまで、デバイスを再度操作しないでください。
- 濡れた手で電源ケーブルに絶対触れないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しする場合は、必ず本体の電源スイッチを落とした状態で行ってください。
- 本体の上に物を置いたり、換気の悪い狭い場所でデバイスを使用したりしないでください。デバイスの動作や他の近くにあるコンポーネントの動作に影響を与えことがあります。
- 何か問題がある場合は、まず装置の電源を切り、電源を抜いてください。デバイスを自分で修理しようとししないでください。テクニカルサポートまたはディーラーまでご連絡ください。
- ラジエータ、ストーブやその他の熱を発生する装置（アンプを含む）など熱源の近くには装置を設置しないでください。
- お掃除の際には強い化学薬品は使用せず、電子機器専用のクリーナーをご使用ください。
- 本体の電源を入れる前にすべての周辺機器を接続してください。
- 製品は、電源コードを介して主電源のアースに接続されています。
- アースを取り付けずに本製品を使用しないでください。
- DC 電源ケーブルは人が踏んでしまうような場所や、挟まれたり、他のものが上に乗ることのないように設置、接続するようにしてください。



- 本製品の電源を完全に落とす場合は、まず電源ケーブルをコンセントから抜き、本体背面から電源ケーブルを抜いてください。
- ヘッドフォンやモニターを通して頻繁に、または長時間大きい音量・音圧に耳を晒してしまうと聴覚器官の損傷の恐れがあります。くれぐれもご注意ください。
- 運送中またはフライトケースでユニットを搬送する場合は、必ずラックから外してください。
- 本製品は下記の温度環境で動作するように設計されています。
0-50 °C、32-122°F

2.0 セットアップ

2.1 初期設定とオンラインアクティベーション

弊社のオーディオインターフェイスをお使いになる前に、必須のオンラインアクティベーション（製品登録）が必要となります。このプロセスを実行することで、製品保証の有効にする上、特別なソフトウェアパッケージや限定製品オファーへアクセスができるようになります。

製品のアクティベーションを成功させるには、インターネット接続が必要です。

① Zen Go Synergy Core を macOS 又は Windows のコンピューターに接続します

- Zen Go Synergy Core USB 版の場合、付属の USB-C ケーブルで接続します。（必要の場合、付属の USB-A アダプタをご利用ください）
- Zen Go TB 版の場合、Thunderbolt™ケーブルで接続します（含まれておりません）

注1：Windows の場合、Thunderbolt™ 4 はサポート対象外となります。また、Windows では ASIO のみに対応しております。WDM には対応していませんのでご了承ください。

注2：Thunderbolt™ 1 と 2 のポートは、給電不足のためサポート対象外となりますので、ご了承ください。

② <http://www.antelopeaudio.com> にアクセスして、アカウントにログインするか、新たにアカウントを作成します。



③ [弊社サポートページ](#)からご使用のオペレーティングシステム（Windows 10 / macOS 10.14 以降）に対応する最新の Antelope Audio Launcher アプリをダウンロードし、インストールしてください。

Apple Silicon 搭載の Mac をお使いの場合 - [この記事](#)をご覧ください。

④ Antelope Launcher のアプリより、ドライバーをインストールします。

macOS の場合：

Zen Go USB 版 — クラスコンプライアント対応しており、ドライバをインストールすることなく接続・動作させることができますが、パフォーマンスの安定向上と afx2daw 使用のためには、下記の手順で Antelope Unified Driver をインストールすることを推奨しています。

Zen Go TB 版 — Thunderbolt 接続で操作するには、以下の手順で Antelope Unified Driver をインストールしてください。

System タブから、Antelope Unified Driver 欄で最新版を選択します。空欄にチェックを入れ、右下の Update をクリックします。



注 1：Apple Silicon 搭載のコンピュータをお持ちの方は、[こちらのインストールガイド](#)に従ってください。

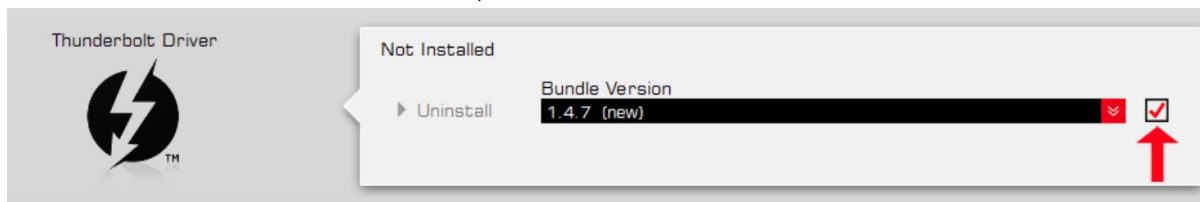
注 2：OS 10.15 Catalina 以降をお使いの方は、[こちらの記事](#)を参考に、セキュリティとプライバシーの設定でドライバーのインストールを許可してください。

Windows の場合：

Zen Go USB 版 — USB ドライバのインストールは、ソフトウェア・ファームウェアバンドルと一緒にインストールされますので、次のステップへお進みください。



Zen Go TB 版 — Windows Thunderbolt ドライバは、Antelope Launcher の System タブからインストールすることができます。ドロップダウンメニューから最新版を選択し、空欄にチェックマークを入れ、右下の Update をクリックします。



注1：Microsoft Thunderbolt™ Control Center がインストールされていることを確認してください。こちらからダウンロード可能です。

<https://www.microsoft.com/store/productId/9N6F0JV38PH1>

注2：Antelope Audio の Windows Thunderbolt ドライバは、DAW アプリケーションでの ASIO 操作のみをサポートしており、WDM (Windows Audio) モードはまだ搭載していません。

注3：Thunderbolt 経由で Windows オーディオを有効にするには、サードパーティ製のソフトウェアが必要です。Antelope Audio では Voicemeeter Banana を推奨しており、こちらよりダウンロードできます。

<https://vb-audio.com/Voicemeeter/>

注4：本ドライバは、Windows の Thunderbolt™ 4 ポートには現在対応しておりません。

⑤ Launcher アプリの「Devices」タブで、Activate Device をクリックし、手順に従ってください。

⑥ アクティベーションが完了すると、デバイスが再起動します。その後、Zen Go Synergy Core を「Devices」タブで公開されている最新の Bundle バージョンにアップデートしてください。

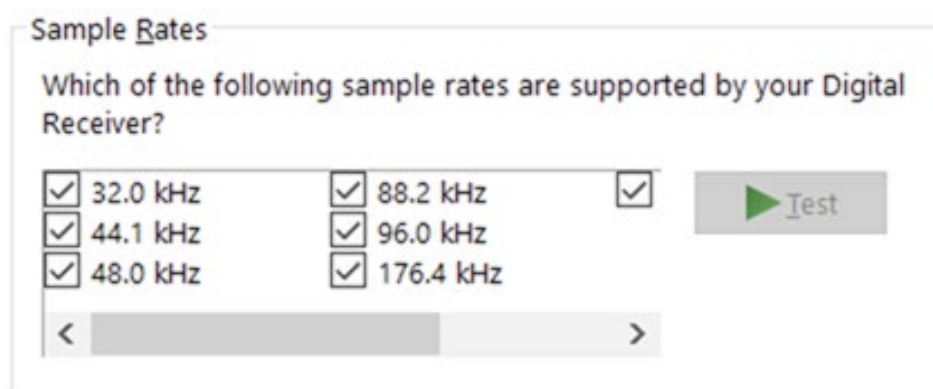
注：アクティベーションを終えた Zen Go Synergy Core は、Antelope Audio ユーザーエリアの 'My Hardware' ページにシリアル番号とアクティベーション日とともに表示されています。



2.2 Windows の設定

Windows は Zen Go Synergy Core を起動して動作させるために、いくつかの調整が必要です。

1. コントロールパネルから「サウンド」オプションウィンドウに入るか、システムトレイのスピーカーアイコンを右クリックして「サウンド設定を開く」を選択します。
2. 「出力」と「入力」で Zen Go Synergy Core が選択されていることを確認します。
 - 「出力」の下には、インターフェイスが「ZenGo SC USB Audio Driver 再生 1/2」としてリストアップされている必要があります。
 - 「入力」の下には、デバイスは「ZenGo SC USB Audio Driver 録音 1/2」としてリストされている必要があります。
3. 「出力」の下の「デバイスのプロパティ」をクリックします。次に「追加デバイスのプロパティ」をクリックします。
4. 「サポートされているフォーマット」タブに入り、利用可能なすべてのサンプルレートの横にチェックマークを付けます。



5. 「機能拡張」タブに入り、すべての機能拡張を無効にします。
7. サウンド設定に戻り、「入力」の下の「デバイスプロパティ」をクリックします。次に、「追加デバイスのプロパティ」をクリックします。「拡張機能」タブに入り、すべての拡張機能を無効にします。「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

Tips

- DAW を使用している際、OS のオーディオを同時に再生しようとした時に中断や障害が発生する場合は、デバイスのサンプルレートが DAW セッションのサンプルレートと一致しているかどうかを確認してください。



- In「詳細設定」タブから「排他モード」機能を無効にすると、複数の再生アプリケーションを同時に実行している際に役立つ場合があります。
- 32kHz サンプルレートを無効にすることは必須ではありませんが、一般的には役立つかもしれません。

更に詳細を知る

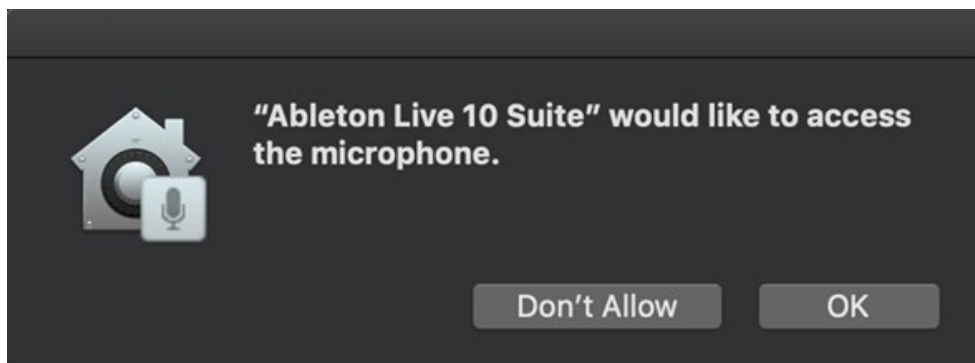
Antelope Audio Knowledge Base - [Windows Optimization](#)

2.3 macOS の設定

macOS (10.14 以降)のセキュリティ設定により、すべてが正しく設定されているにもかかわらず、入力信号が DAW で使用できない場合があります。

以下の手順は、初めて DAW で Zen Go Synergy Core を使用する場合に適用されます。

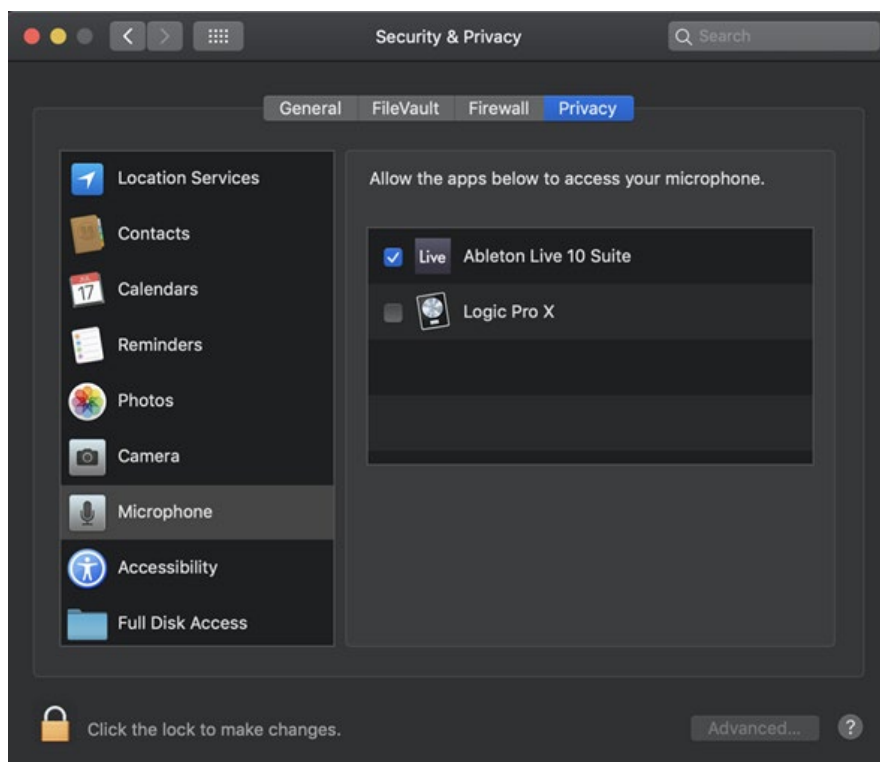
1. DAW を起動し、入力デバイスとして Zen Go Synergy Core を選択します。以下のダイアログボックスが表示されます（Ableton Live 10 Suite を使用している場合など）。



2. 'OK' をクリックすると 正常に DAW が機能します。

ただし、何らかの理由で上記のイベントが発生しなかった場合や、複数の DAW を使用している場合は、「セキュリティとプライバシー」の設定でそれぞれ手動で調整する必要があります。

1. 「Apple」マークをクリックし、「システム環境設定」を選択します。「セキュリティとプライバシー」の設定メニューに進みます
2. 「プライバシー」タブをクリックします。左側の列で「マイク」を選択します。使用したい DAW の横にチェックマークがあることを確認します。



注意: 変更を行うには、左下の南京錠マークをクリックしてパスワードを入力する必要があります。

3.0 コネクティビティと充電オプション

3.1 Zen Go USB のコネクティビティと充電オプション

Zen Go Synergy Core のデュアル USB-C ポートは、以下の接続と充電/電源供給が可能です。





USB バスパワーで Windows または macOS コンピュータに接続

Zen Go Synergy Core を USB ケーブルでコンピュータに接続するだけです。'AUSB'  とマークされた USB-C ポートを使用してください。コンピュータは、USB 接続（バスパワー）を介してインターフェイスに電源を供給します。USB Type-C から USB Type-A へのアダプタおよびケーブルを使用して、USB Type-A ポートに接続することも可能となります。

外部 USB 電源で Windows または macOS コンピュータに接続する

バッテリー駆動のラップトップ PC でレコーディングを行う場合、USB バスパワーはバッテリーの消耗が激しくなり、セッション時間が短くなるため好ましくない選択かもしれません。この場合、アダプタ、電源銀行、またはパワード USB ハブなどの外部 USB 電源から Zen Go Synergy Core に電源を供給することができます。その方法をご紹介します。

- ① 'AUSB' とマークされた USB-C ポートを使用して、Zen Go Synergy Core をラップトップに接続します。
- ② USB 電源 を USB-C 電源ポート  に接続します。
- ③ インターフェイスのトップパネルの 'HP/MON ボタンを長押しして、システムメニューに入ります。
- ④ ロータリーコントロールを回して、'Power Source' メニュー項目を選択します。ロータリーコントロールを押して、入力します。
- ⑤ ロータリーコントロールを回して、'Power B' オプションを選択します。ロータリーコントロールを押して確定します。
- ⑥ インターフェイスのトップパネルの 'Antelope' ボタンを押して、メニューを終了します。

注意：USB 電源が 1A 以上の電流を出力していることを確認してください。

外部 USB 電源でスマートフォンやタブレットに接続する

Zen Go Synergy Core は最新のモバイルデバイスにクラス準拠しており、再生や録画アプリで使用するために簡単に接続することができます。ただし、モバイル機器は USB バスパワ



ーを供給しません。インターフェイスは、アダプタ、パワーバンク、またはパワード USB ハブなどの外部 USB 電源から給電する必要があります。その方法をご紹介します。

- ① 'AUSB'  とマークされた USB-C ポートを使用して、Zen Go Synergy Core をモバイルデバイスに接続します。
- ② USB 電源をインターフェイスの Power USB-C ポートに接続します。
- ③ インターフェイスのトップパネルの 'HP/MON' ボタンを長押しして、システムメニューに入ります。
- ④ ロータリーコントロールを回して、'Power Source' メニュー項目を選択します。ロータリーコントロールを押して、入力します。
- ⑤ ロータリーコントロールを回して、'Power B' オプションを選択します。ロータリーコントロールを押して確定します。
- ⑥ インターフェイスのトップパネルの 'Antelope' ボタンを押して、メニューを終了します。

注意: USB 電源が少なくとも 1A の電流を出力していることを確認してください。

モバイル端末を充電しながらスマートフォンやタブレットに接続する(リバースチャージ)

Zen Go Synergy Core は、モバイルデバイスに接続すると同時に充電することができます。唯一の条件は、アダプタ、パワーバンク、パワード USB ハブなどの外部 USB 電源からインターフェイスに電源を供給する必要があることです。その方法をご紹介します。

- ① 'AUSB'  とマークされた USB-C ポートを使用して、Zen Go Synergy Core をモバイルデバイスに接続します。
- ② USB 電源をインターフェイスの Power USB-C ポート  に接続します。
- ③ インターフェイスのトップパネルの 'HP/MON' ボタンを長押しして、システムメニューに入ります。
- ④ ロータリーコントロールを回して、'Power Source' メニュー項目を選択します。ロータリーコントロールを押して、入力します。



- ⑤ ロータリーコントロールを回して、'Charge device A from B' オプションを選択します。ロータリーコントロールを押して確認します。
- ⑥ インターフェイスのトップパネルの 'Antelope' ボタンを押して、メニューを終了します。

注意：USB 電源が 1A 以上の電流を出力していることを確認してください。

3.2 Zen Go Thunderbolt のコネクティビティと充電オプション



Zen Go Thunderbolt 版は、バスパワー駆動のオーディオインターフェイスであり、動作のために Thunderbolt™ 3 または 4 ポートのみが必要となります。

Thunderbolt™ 1 と 2 のポートは、給電不足のためサポート対象外となります。

Apple Certified の Thunderbolt™ ケーブルの利用を強く推奨します。

注：Windows の場合、Thunderbolt™ 4 搭載の PC との互換性はまだ確認されておりません。



4.0 パネル解説

4.1 トップパネル



1. ディスプレイ

ディスプレイには以下の情報が表示されます。

- アナログ入力（入力 1～2）、S/PDIF 入力（チャンネル 1～2）、HP1 出力（L/R チャンネル）など、最大 3 つの入出力のゲイン/ボリューム計測が可能です。
- 現在のクロックソース - 内部、S/PDIF、USB のいずれかを選択します。USB モードの場合、内部クロックに同期します。
- ロックインジケータ - S/PDIF オーディオおよびクロックソースにロックされている場合に点灯します。
- 現在のデバイスのサンプルレート（例：32kHz～192kHz）を表示します。

注：ディスプレイはタッチスクリーンではありません。

2. ファンクションキー - Gain、HP/MON、Antelope ボタン

'Gain' ボタン — 'Gain' ボタンは以下の機能を備えております。



- 'Gain' を押して、インターフェイスのデュアルアナログ入力の入力ゲインを調整できます。ロータリーコントロールを回して入力ゲインを調整します。Antelope ボタンを押して終了します。
- 'Gain' を押し続けると Control Menu に入れます。（セクション 4.1.1 をご参照）

‘HP/MON’ ボタン — 'HP/MON' ボタンは以下の機能を備えております。

- 'HP/MON' を押して、ヘッドフォン（HP1、HP2）とモニター出力の音量調整を行います。ロータリーコントロールを回して音量を調整します。ロータリーコントロールを押して、ミュートとミュート解除を行います。'Antelope' ボタンを押して終了します。
- 'HP/MON' ボタンを長押しして、System Menu に入ります。（セクション 4.1.2 をご参照）

'Antelope' ボタン — 'Antelope' ボタンには下記の機能を備えております。

- メニュー内でボタンを押してメニューを終了します。
- ボタンを長押しすると、ディスプレイの明るさ調整に入ります。

3. Rotary Control

ゲイン、ボリュームなどを精密に調整できる大型のステップ式エンコーダーです。メニューナビゲーションにも使用できます。

- メニューに入っていないときは、エンコーダを回してモニター出力の音量を調整します。
- メニューに入っていないときは、エンコーダを押して、モニター出力をミュート・ミュート解除します。

4.1.1 Control Menu

ロータリーコントロールを回してメニューを移動し、項目を選択します。ロータリーコントロールを押して、その項目のサブメニューに入ります。ロータリーコントロールを回して、利用可能な選択肢を表示し、調整を行います。ロータリーコントロールを押して確定します。

Control Menu には以下の項目があります。



- Power OFF - ロータリーコントロールを押してスタンバイ状態にします。もう一度押すと、デバイスが起動します。
- Clock Source - クロックソースを選択します（内部、S/PDIF、USB または USBCC*）。USB モードでは、ユニットは内部クロックに同期します。

* USB Class Compliant - このクロックソースに設定すると、ドライバなしで Android/Linux ベースのシステムで動作します。

- Sample Rate - デバイスのサンプルレート（32kHz～192kHz）を選択します。DAW や OS のサンプルレートと常に一致していることを確認してください。
- Monitor Trim - モニター出力のオーディオ信号のトリム値（14dBu -20dBu）を選択します。デフォルトでは、このオプションは 20dBu に設定されています。トリムは、2 つ以上のスピーカー間の音量差を補正して、同じ音量レベルになるように調整することができます。
- Line Out Trim - RCA 出力のオーディオ信号のトリム値を選択します（14dBu～20dBu）。デフォルトでは 20dBu に設定されています。トリムは、2 台以上のスピーカー間の音量差を補正し、同じ音量レベルになるように調整することができます。
- Brightness - 画面の明るさを調整できます (5% - 100%).

'Antelope button' をクリックすると Control Menu に戻れます

4.1.2 System Menu

ロータリーコントロールを回してメニューを移動し、項目を選択します。ロータリーコントロールを押して、その項目のサブメニューに入ります。ロータリーコントロールを回して、利用可能な選択肢を表示し、調整を行います。ロータリーコントロールを押して確定します。

System Menu には以下の項目:

- Device Info - デバイスのシリアル番号、ハードウェアリビジョン、ファームウェアバージョンを表示します。この情報は、カスタマーサポートに連絡する際に役立ちます。ロータリーコントロールを回すと、システムメニューに戻ります。
- Scr Save Time - 本体がアイドル状態のときにディスプレイにスクリーンセーバー



が表示されるまでの時間を選択します。選択肢は、'OFF'（スクリーンセーバーを無効にする）から最長 120 分までです。ディスプレイの焼き付きを防ぐために、快適に過ごせる最短の時間を選択することをお勧めします。

- Scr Save Style - スクリーンセーバーのスタイル（スターまたはブラック）を選択します。
- Power Source - USB-C ポート（電源 A）からのバスパワーか、専用の電源 USB-C ポート（電源 B）を経由して他の電源（アダプタ、パワード USB ハブ、パワーバンクなど）からの USB パワーかを選択します。3 番目の選択 - B からデバイス A を充電 - スマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイスに接続し、インターフェイスとモバイルデバイスの両方に USB 電源を供給することができます。Zen Go Synergy Core は最新のモバイル機器にクラス準拠しており、再生や録画アプリで使用するために簡単に接続することができます。インターフェイスの Power USB-C 専用ポートに 1A 以上の電流が流れる USB 電源を接続します。もう一方の USB-C ポートにモバイルデバイスを接続します。メニューから 'Charge device A from B' を選択すれば完了です。
- Factory Reset - ロータリーコントロールを押して、ユニットを工場出荷時の初期設定に戻します。

'Antelope' ボタンを押して Control Menu に戻ることができます。

4.1.3 その他の Control 機能

ハードウェアプリセットの保存：

すべてのコントロールパネルとハードウェアの設定を含む現在のセッションのプリセットを、5 つの空きスロットのいずれかに保存します。

- 'Antelope' ボタンを押しながら 'HP/MON' ボタンを押します。
- ロータリーノブを回して対象スロットを選び、押し込んで選択します。

ハードウェアプリセットの呼び出し：

保存したプリセットを呼び出すには



- 'Antelope' ボタンを押しながら 'Gain' ボタンを押します。
- ロータリーノブを回して対象スロットを選び、押し込んでプリセットを読み込みます。

アナログ入力モードの切り替え

アナログ入力のマイク、ライン、Hi-Z モードを切り換えるには:

- 'Gain' ボタンを押して入力メニューにアクセスします。
- ロータリーノブを回してモードを切り替えます。

48V ファンタム電源の有効化

マイク入力のファンタム電源を有効にするには:

- 'Gain' ボタンを押し、選択した入力に対してマイクモードが有効になっていることを確認します。
- 表示画面に 48V のアイコンが表示されるまで ロータリーノブを押し続けます。

Dim 機能の有効化

HP またはモニター出力の Dim 機能を有効にする場合:

- 'HP/MON' ボタンを押します。
- ロータリーノブを押して Dim を有効にします。

4.2 フロントパネル





Zen Go Synergy Core のフロントパネルには、'HP1' と 'HP2' のラベルが貼られた 1/4 インチ TRS ジャックに 1 組のステレオヘッドホン出力が搭載されています。出力には専用のボリュームコントロールがあります。

本機のトップパネルの 'HP/MON' ボタン、および Windows/macOS のコントロールパネルアプリケーションの 'HP/MON' ボタンをクリックしてください。

4.3 リアパネル

USB 版



Thunderbolt™版



Zen Go Synergy Core のリアパネルは以下のようにレイアウトされています。（左から順に）

アナログ入力 A2 と A1





3 ピン XLR と 1/4 インチ TS/TRS コネクタを組み合わせたデュアルマイク/ラインレベル/ハイインピーダンスインストゥルメント (Hi-Z) モノ入力。Windows/macOS のコントロールパネルアプリケーションを使用して、動作モード (Mic/Line/Hi-Z) を選択し、コンデンサーマイク用の 48V ファンタム電源を有効または無効にすることができます。

重要! 必ず以下の接続を使用してください。

- マイクは 3 ピン XLR マイクケーブルで接続してください。一般的な注意事項として、ダイナミックマイクやリボンマイクを接続する際には、48V ファンタム電源がオフになっていることを確認してから接続してください。
- ラインレベルのオーディオソース (シンセサイザーやキーボードなど) を、1/4 インチ TS (アンバランス、モノラル) または TRS (バランス、モノラル、ステレオ) のオーディオケーブルで接続します。
- ハイインピーダンスの電気楽器 (エレキギターやベースなど) を 1/4 インチ TS (アンバランス、モノラル) の楽器ケーブルで接続します。

プロのオーディオの世界では、ラインレベルの機器を 1/4 インチ TS/TRS オーディオケーブルではなく、3 ピンのバランス XLR (マイク) ケーブルで接続することも珍しくありません。しかし、ここではこれは正しい方法ではありません。

ラインレベルの機器を XLR ケーブルで Zen Go Synergy Core に接続すると、インターフェイスのマイクプリアンプがアクティブになり、ラインレベルの信号が増幅されて、聞こえるほどの歪みが発生します。Windows/macOS コントロールパネルアプリケーションの 'PREAMPS' タブで 'Line' を選択しても、これを防ぐことはできません。

ラインレベルの機器が XLR 接続に制限されている場合でも、(マイク) ケーブルに標準の 3 ピン XLR to 1/4 インチ TRS アダプタを接続することで、バランス XLR (マイク) ケーブルを使用することができます。3 ピン XLR to 1/4 インチ TRS オーディオ / マイクケーブルでも使用可能です。お使いの機器のライン出力に使用されている XLR コネクタのタイプ (オスカメス、通常はオス) を正しく識別して、適切なアダプタやケーブルを入手してください。



Monitor アウトプット



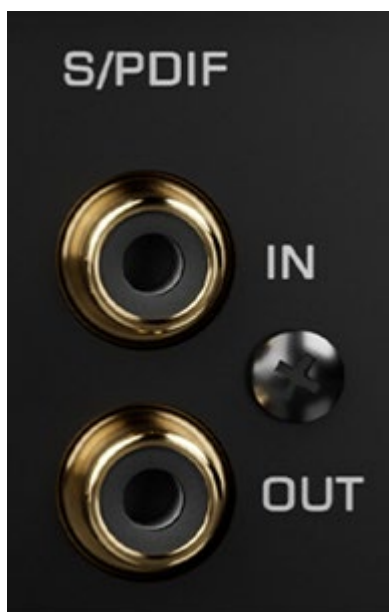
Zen Go Synergy Core は、1/4 インチ TS/TRS (L/R) と RCA (L/R) のモニター出力をデュアルで搭載しています。スタジオモニタースピーカーの大半は 1/4 インチのオーディオ入力を備えていますが、小型のモニターやリスニング・スピーカー（「デスクトップ」や「ブックシェルフ」など）、ホームステレオシステム、DJ 機器などは通常 RCA オーディオ入力を備えています。インターフェイスはその両方に接続します。

これらの接続はグローバルなステレオモニター出力を共有しています。しかし、両方の接続タイプが存在することで、以下のような興味深い可能性を提供します。

- 2つの異なるリスニングシステムを同時に接続します - 例えば、クリティカルなリスニングのためのスタジオモニターと、参考のためのホームステレオシステム（ミックスチェックなど）のペアなど。
- RCA リスニングシステムに接続し、1/4 インチ出力をペアのライン出力として扱います。これにより、モニター出力からのオーディオをエフェクトプロセッサーやレコーダー、ミキサーなどの外部機器に取り込むことができます。



S/PDIF デジタルオーディオインプットとアウトプット



コアキシャル RCA ケーブルで 2 チャンネルのステレオデジタル音声を入出力可能。対応機器での使用を想定しております。

Power USB-C ポート（Zen Go USB 版のみ）



Power USB-C ポートは、Zen Go Synergy Core を真のモバイルポータブルオーディオインターフェイスに変える現代的なソリューションです。以下のような使用用途があります。

- アダプター、パワード USB ハブ、パワーバンクなどの外部 USB 電源から Zen Go Synergy Core に電源を供給します（最低 1A の電流が必要です）。この方法では、インターフェイスがノートパソコンやモバイル機器のバッテリーを消耗することがないので、長時間の録画セッションが可能になります。
- インターフェイスとモバイル機器の両方に USB 電源を供給しながら、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器に接続することができます。Zen Go Synergy



Core は、最新のモバイル機器のクラスに準拠しており、再生アプリや録画アプリで
使用するために簡単に接続することができます。

これらの機能を活用するためには:

1. 専用の Power USB-C ポートに 1A 以上の電流が流れる USB 電源を接続します。
2. もう一方の USB-C ポートにノートパソコンやモバイル機器（スマートフォンやタブレット）を接続します。
3. トップパネルの 'HP/MON' ボタンを長押しして、システムメニューに入ります。ロータリーコントロールを回して 'Power Source' を選択します。ロータリーコントロールを回して 'Power Source' を選択します。ロータリーコントロールを回して、以下のいずれかを選択します。
 - 'Power B' で USB バスパワーから外部 USB 電源に切り替えます。
 - 'Charge device A from B' で、モバイルデバイス（スマートフォンやタブレット）に USB 電源を供給します。
4. ロータリーダイヤルを押して確定します。'Antelope' ボタンを押してメニューを終了します。

USB-C ポート（Zen Go USB 版のみ）



この USB-C ポートはオーディオ録音、再生、Windows/macOS Antelope Audio アプリケーション（Antelope Launcher と Control Panel）との通信のために、コンピュータ、ラップトップ、またはモバイル機器に接続します。コンピュータやラップトップに接続すると、USB バスパワーをインターフェイスに供給します。接続は USB Type-A ポートにも対応しており、標準的な USB Type-C to USB Type-A アダプターまたはケーブルを使用します。



Thunderbolt™ 3 ポート（Zen Go Thunderbolt 版のみ）



この Thunderbolt ポートは、Thunderbolt ケーブル Mac または PC に接続すると、オーディオ再生/録音、コントロール通信、電源供給を行います。接続は Thunderbolt 3 または 4 ポートのみに対応しています。

注：Windows の場合、Thunderbolt™ 4 搭載の PC との互換性はまだ確認されておりません。

Kensington lock



キオスク、店舗、デモルームなどで物理的にユニットをロックするために使用される盗難防止システムです。



5.0 コントロールパネルアプリケーション



Zen Go Synergy Core Windows/macOS コントロールパネルアプリケーションを説明いたします。

物理的なトップパネルコントロールの代わりになるだけでなく、インターフェイスの機能の各側面に簡単かつ包括的にアクセスすることができます。これには、設定、シグナルルーティング、オーディオミキシング、エフェクトチェーン、モニタリング、メータリング、プリセットなどが含まれます。デバイスを最大限に活用するためにも、アプリケーションを使いこなすことをお勧めします。

クイックスタート

まず 'Control Panel' で実行される重要なタスクの簡単な例を挙げてみましょう。

注意：これらの例は、以下のタスクを実行するための「正しい」「唯一の」方法を示すものではありません。これらの例は、基本的なロジックを説明し、初心者ユーザーがよく遭遇する最初のつまづきを解決するためのものです。



ヘッドフォンを介してマイクオーディオをモニター する

入力 A1 からヘッドフォン出力 1 (HP1) を介して入力 A1 に入ってくるマイクの音声をモニターしたいとします。機器を接続し、'Control Panel' を開きます。以下の操作を行います。

1. 'PREAMPS' セクションで一番左のプリアンプに向かい、シグナルタイプセクターのドロップダウンメニューをクリックします。'Mic' を選択し、もしファンタム電源が必要な場合は、48V ファンタム電源を有効にすることを忘れないでください。
2. 'AFX' エリアの上にあるインプットセクターをクリックし、メニューから PREAMPS >PREAMP 1 を選択します。
3. ヘッドフォンでマイクの音声が聞こえるようになるまで入力ゲインを調整します。

Synergy Core FX を入力オーディオに適用

インプットセクターの下にある 'AFX' エリアをクリックして Synergy Core FX ラックウィンドウを開きます。'ADD NEW EFFECT' ボタンをクリックして選択します。完了したらウィンドウを閉じます。

バーチャルアンプとキャビネットを使ってギターを演奏し、スタジオのモニターから聴く

1. ギターをインプット A1 に、モニターをインターフェイスのモニター出力に接続します。
2. コントロールパネルを開き、一番左の 'PREAMPS' の列に移動します。シグナルタイプセクターのドロップダウンメニューから 'Hi-Z' を選択します。
3. AFX エリアの上のインプットセクターをクリックし、メニューから PREAMPS >PREAMP 1 を選択します。
4. 入力セクターの下にある 'AFX' エリアをクリックし、Synergy Core FX Rack を開きます。'ADD NEW EFFECT' をクリックし、メニューからギターアンプとキャビネットを選択します。どこから手をつけていいかわからない場合、'Modern (US)' アンプと 'Modern 4 x 12' キャビネットの組み合わせは、モダンなロック/メタルリグに最適です。



マイクエミュレーションで歌い、ヘッドフォンでライブモニターをする

1. ヘッドホンをフロントパネルの入力 HP1 に接続します。
2. Antelope Audio Edge または Verge モデリングマイクをリアパネルの入力 A1 または A2 に接続します。この例では、入力 A1 に接続された Edge Solo を使用しています。
3. Control Panel を開き、PREAMPS 行から一番左のプリアンプを選択します。AFX エリアの上にあるインプットセクターをクリックし、メニューから 'PREAMPS' > 'PREAMP 1' を選択します。
4. マイクエミュレーションボタン  をクリックして、マイクエミュレーションウィンドウを開きます。ダイヤルで Edge Solo を選択します。
5. ゲインノブでマイクのゲインを調整します。この時点で、ヘッドフォンからマイクの音声が聞こえているはずです。

ストリーミング用のループバック機能

この章ではストリーミングアプリケーションで使用するための Zen Go Synergy Core の設定方法を説明します。基本的なワークフローは以下のようになります。

1. Control Panel のアプリケーションを使用して、ストリーミングアプリケーションに送信するオーディオミックスを作成します。このミックスは、'Monitor/HP1' ミックス、'Headphone 2' ミックス、またはその両方にすることができます。ミックスには、入力オーディオ（マイクからのオーディオなど）とオペレーティングシステム/コンピュータのオーディオ（再生、DAW 出力、サウンドエフェクトなど）の両方を含めることができます。
2. Control Panel アプリケーションの 'DAW I/O' ビューに向かいます。インプットセクターを使用して、'MON/HP1 MIX' 1~2 や 'HP2 MIX' 1~2 をお好みのバーチャルインプットにルーティングします。例えば、'MON/HP1 MIX' 1 を 'Record 5' に、'MON/HP1 MIX' 2 を 'Record 6' に設定します。
3. ストリーミングアプリケーションが入力 5 と 6 からオーディオを受信するように設定します。これにより、アプリケーションは Control Panel アプリケーションの 'Monitor/HP1' ミキサーからのステレオ出力を受信します。



DAW でのレコーディング

Zen Go Synergy Core でのレコーディングはとても簡単です。まず、DAW のメイン入出力デバイスとしてインターフェイスが選択されていることを確認します。次に、コントロールパネルを開き、'DAW I/O' をクリックします。以下の点に注意してください:

- DAW のインプット 1～8 は 'TO DAW' 行の "Record 1～8" と表示された 8 つのチャンネルに対応しています。入力セクターを使ってオーディオソースを選択し、'AFX' エリアから Synergy Core FX を追加します。次に DAW に新しいトラックを作成し、そのトラックに対応する番号のインプットをアサインします。
- 同様に DAW の Output 1-8 は、'FROM DAW' の行の 'PLAY 1-8' というラベルの付いたチャンネルに対応しています。これらのチャンネルはインプットセクターからオーディオインプットとして選択することができます。Output 1-8 を DAW の外に出したいオーディオトラックにアサインします。コントロールパネルで 'COMPUTER PLAY' 1-8 をクリックして選択します。

マウス & キーボードのショートカット

以下の機能は、Control Panel アプリケーションのマウスとキーボードのショートカットからアクセスできます。

- デフォルト値に戻す（すべてのノブとフェーダー）：ノブまたはフェーダーをダブルクリックします。
- 'PREAMPS' セクションの 2 つの入力チャンネルのテキストラベルを変更する：テキストラベルをダブルクリックしてテキストを入力します。
- パラメータ値を 1dB 単位で調整します（すべてのノブとフェーダー）：Ctrl (Windows) / Command (macOS) を押したままドラッグします。
- ピークメーターをクリックしてクリアします。
- Zen Go Synergy Core Control Panel アプリケーションウィンドウの端をクリックしてドラッグし、サイズを変更します。



5.1 メインビュー

上から下へ、Control Panel のアプリケーションは以下のように構成されています。

Function strip 1



下記を含みます：

On/Standby ボタン



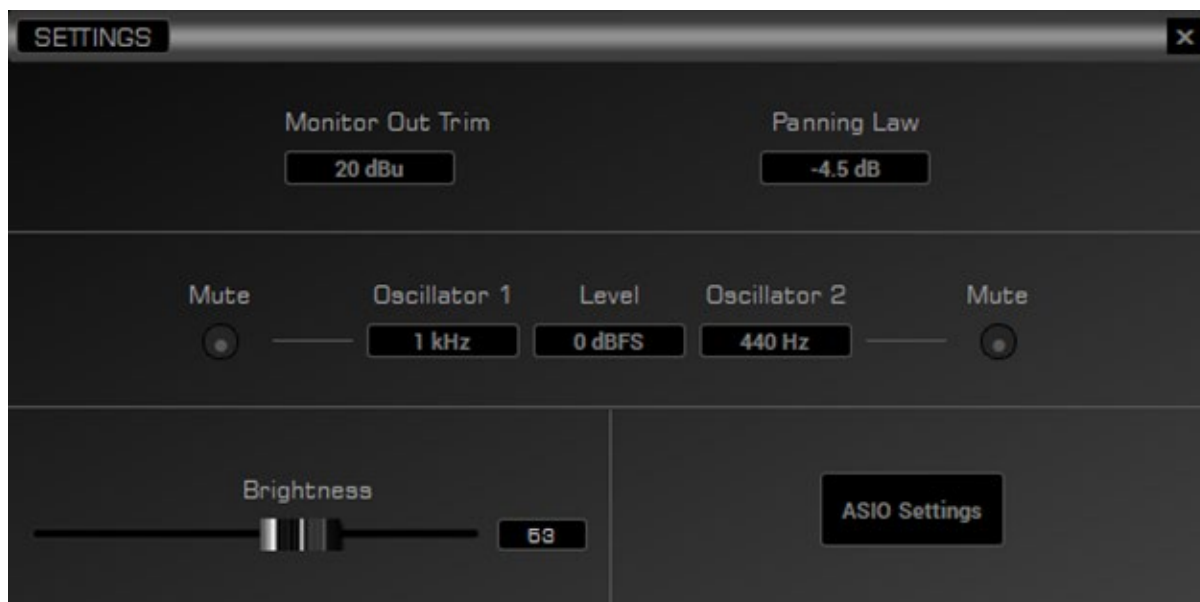
クリックして Zen Go Synergy Core をスタンバイモードにします。再度クリックして電源を入れます。

Settings ボタン



クリックして以下のオプションで Settings Window を開きます。

Settings Window



Monitor Out Trim

モニター出力のオーディオ信号のトリム値（14dBu～20dBu）を選択します。デフォルトでは、このオプションは 20dBu に設定され



	ています。トリムは、2つ以上のスピーカーの間で知覚される音量の違いを補正し、同じ知覚音量レベルになるようにするために使用することができます。
Panning Law	クリックして Panning Law の補正値を 0dB（なし）から -4.5dB の間で指定します。モノラル入力がステレオバスに接続されている場合、ステレオフィールドの片側からもう片側へオーディオが掃引される際のサウンドレベルの感じ方は、パンニングの法則によって決まります。オーディオを左右にパンニングすると、知覚されるボリュームレベルに顕著な違いが生じる場合、Panning Law の補正を調整して、インターフェイスの出力をリスニング機器に合わせて調整してください。
Mute	クリックすると Oscillator 1 のミュート/アンミュートができます。
Oscillator 1	クリックして Oscillator 1 の周波数（440Hz または 1kHz）を選択します。Oscillator 1 はテスト信号を生成し、トラブルシューティングとカリブレーションのためにモニター出力へ供給されます。
Level	クリックして Oscillator 1 と Oscillator 2 の出力レベルを選択します（-18 dBFS～0 dBFS）。
Oscillator 2	クリックして Oscillator 2 の周波数（440Hz または 1kHz）を選択します。Oscillator 2 はテスト信号を生成し、トラブルシューティングとカリブレーションのためにモニター出力へ供給されます。



Mute	クリックすると Oscillator 2 のミュート/アンミュートができます。
ASIO Settings	Windows ユーザーの場合 - クリックして Zen Go SynergyCore USB ASIO コントロールパネルを起動します。'BufferSettings' タブでは、お好みの ASIO バッファサイズを選択して、デジタルオーディオのレイテンシーとコンピューターのパフォーマンスのバランスを最適化することができます。
Brightness (available only for Zen Go USB)	フェーダーをクリック&ドラッグして、Zen Go Synergy Core ディスプレイの明るさを調整します。

Minimize button



クリックして Zen Go Synergy Core Control Panel アプリケーションを最小化します。

Maximize button



クリックして Zen Go Synergy Core Control Panel アプリケーションウィンドウを最大化します。ボタンを再度クリックするか、隣接するサイズ変更ボタンをクリックすると、既定のサイズに戻ります。

Resize button



Zen Go Synergy Core Control Panel アプリケーションウィンドウのサイズを最大化したり、手動でサイズを変更したりする場合は、このボタンをクリックするとデフォルトのサイズに戻ります。



Close button



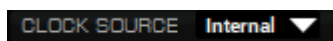
クリックして Zen Go Synergy Core Control Panel アプリケーションを閉じます。

Function strip 2



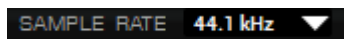
下記を含みます:

Clock Source セレクター



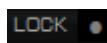
ドロップダウンメニューからクロックソース（内部、S/PDIF、USB）をクリックして選択します。USB モードではユニットは内部クロックと同期します。

Sample Rate セレクター



ドロップダウンメニューからデバイスのサンプルレート（32kHz - 192kHz）をクリックして選択します。選択したサンプルレートが常に DAW とオペレーティングシステムのサンプルレートと一致していることを確認してください。

Lock indicator



S/PDIF オーディオおよびクロックソースに 'locked' されているときに点灯します。

Session コントロール

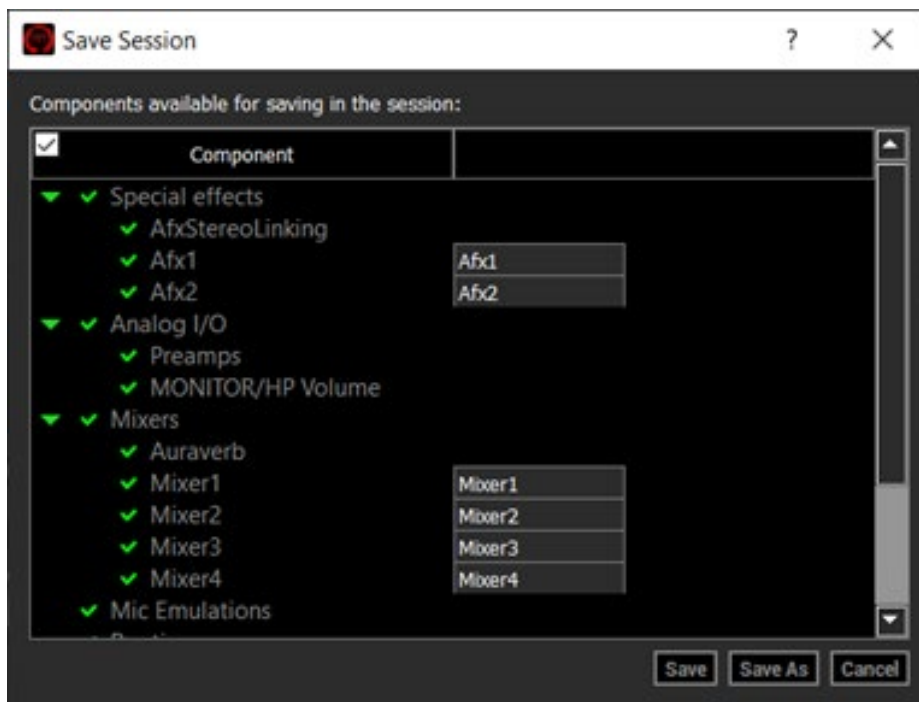


Sessions は Control Panel の設定の「スナップショット」です。これは、他のコンピュータや Zen Go Synergy Core ユーザーと保存、読み込み、共有できる Control Panel のプリセットと考えてください。

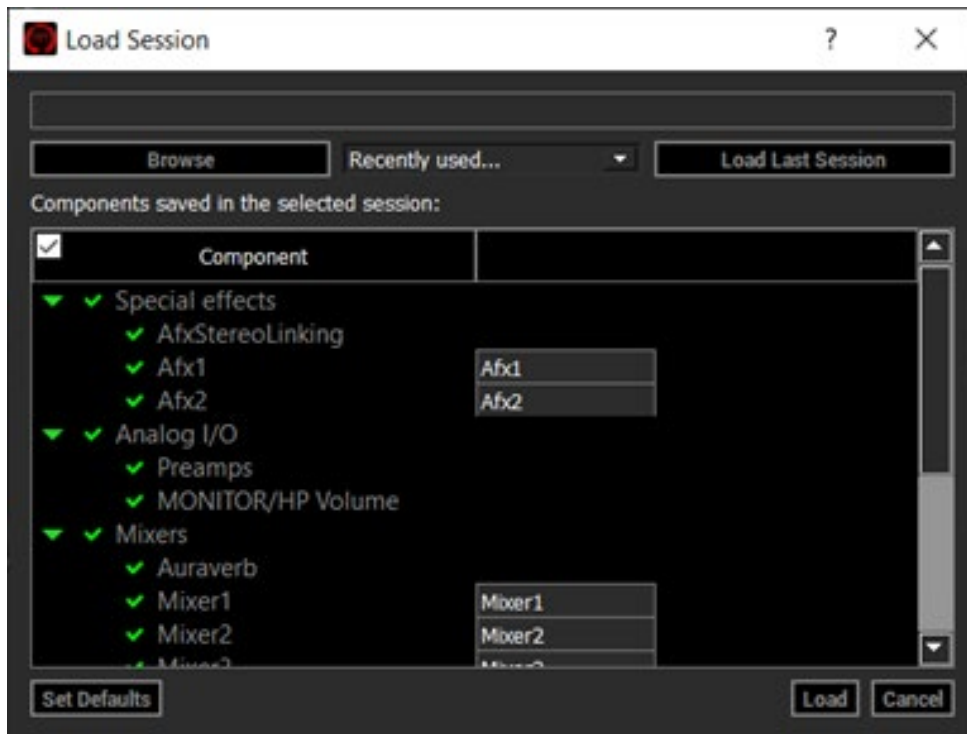


'Save' ボタンの左側のフィールドには、現在読み込まれているセッションファイルが表示されます。'Save' および 'Load' ボタンをクリックすると、セッションファイル (*.as) が保存およびロードされます。

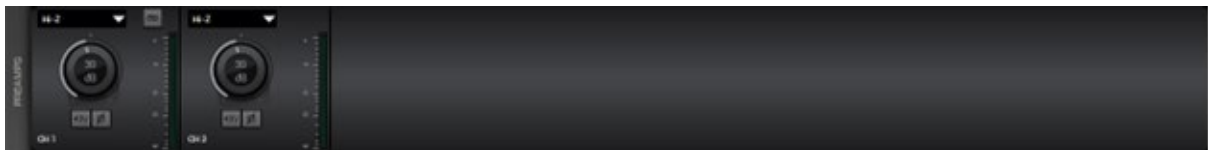
セッションの保存ウィンドウでは、保存したいコンポーネントを正確に選択し、'Save As' ボタンからセッションファイル (*.as) をエクスポートすることができます。Session が既に *.as ファイル形式で保存されている場合は、'Save' ボタンをクリックして変更した内容を保存します。



Load Session ウィンドウでは、お使いのコンピュータでセッションファイル (*.as) をブラウズして、読み込むコンポーネントを選択することができます。また、最近ロードされた Session のドロップダウンリストから選択したり、最後に使用した Session をロードすることもできます。'Set Defaults' ボタンをクリックすると、コンポーネントの選択がデフォルト設定に戻ります。'Set Defaults' ボタンをクリックしてから 'Load' ボタンをクリックすると、Control Panel アプリケーションがデフォルトの状態に戻ります。



Preamps strip



Zen Go Synergy Core のデュアルアナログオーディオ入力（A2 - A1）のコントロールが含まれています。

シグナルタイプセレクトター



ドロップダウンメニューからレコーディングする信号の種類をクリックして選択します。

- **Mic** - マイク入力でレコーディングする際に選択します。
- **Line** - シンセサイザー、キーボード、サンプラー、ミキサー出力、外部プリアンプ、エフェクトプロセッサーなどのラインレベルの楽器や機器をレコーディングするときに選択します。



- **Hi-Z** - アクティブ またはパッシブマグネティックピックアップを搭載したエレクトリックギターやベース、 piezoピックアップを搭載した電気音響楽器などのエレクトリック弦楽器を録音する場合に選択します。

Link ボタン



入力 A2 - A1 のコントロールをリンクするにはこちらのボタンをクリックしてください。リンクすると、一方の入力のコントロールに加えられた変更は他方の入力にも自動的に反映されます。リンクを解除するにはもう一度クリックします。

Gain コントロール



クリック&ドラッグして入力ゲインを調整します。

使用可能なゲインの範囲は、信号の種類によって定められています。

- Mic: 0 dB to 65 dB
- Line: -6 dB to 20 dB
- Hi-Z: 0 dB to 45 dB

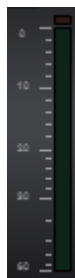
経験則として、入力信号がピークメーターで一貫して-12dB 付近にピークを持つようになるまでゲインを調整します。それができて、ノイズ（ヒスやハムなど）が過剰に発生している場合は、快適な S/N 比（信号が弱すぎず、ノイズがはるかに静かで聞き取れない）が得られるまでゲインを下げます。また、ノイズゲートを使用してみることもできます。

これらのアプローチで満足のいく結果が得られない場合、シグナルチェーンや機器に問題がある可能性があります。例えば、低感度のダイナミックマイクの中には、増幅されると当然ノイズが発生するものがあります。電気弦楽器の磁気ピックアップは、ハムやバズの原因となる電磁干渉（EMI）を起こしやすく、アナログ機器の電子部品は時間の経過とともに劣化する可能性があります。



機器を点検し、適切なゲインステージング（シグナルチェーンのあるユニットから次のユニットの入力への出力が弱すぎたり強すぎたりしないようにすること）を実践してください。

ピークメーター



入力信号の強度を視覚化します。ピークメーターは、Zen Go Synergy Core のディスプレイにも表示されます。ピークメーターが赤になっている場合は、信号が強すぎて音の歪みやクリッピングによって劣化していることを意味しています。時折黄色に傾いても問題ありません。

48V ボタン



クリックするとコンデンサーマイク用の 48V ファンタム電源がアクティブになります。再度クリックすると解除されます。一般的な注意事項として、ダイナミックマイクとリボンマイクを接続する前に、48V ファンタム電源をオフにしてください。

48V ファンタム電源ボタンはツールチップで保護されています。選択したマイクプリアンプのファンタム電源を有効にするには、CMD / CTRL + 左クリックを押します。





フェーズフリップボタン



クリックすると入力信号の位相が反転します。もう一度クリックすると通常の状態に戻ります。録音する前に、入力信号の位相を反転させた場合と反転させていない場合で、入力信号がどのように聞こえるかを確認しておくことをお勧めします。

マイクエミュレーションボタン



'Mic' モードで表示されます。クリックすると、Edge & Verge のマイクエミュレーションウィンドウが開きます。マイクエミュレーションについては、各マイクのマニュアルをご参照ください。

チャンネルラベル



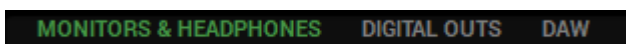
クリックしてテキストを入力すると 'Channel' のラベルを変更することができます。

Function strip 3



下記を含みます：

Control Panel View セレクター



Control Panel のビューは、'Monitors & Headphones'、'Digital Outs'、'DAW' の3つのビューから選択します。3つのビューについては、以下の 'Control Panel Views' サブチャプター



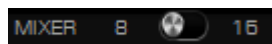
で説明します。これらを理解することは、Zen Go Synergy Core を操作する上で非常に重要です。

AuraVerb ボタン



クリックすると AuraVerb のエフェクトウィンドウが開きます。AuraVerb については、AuraVerb サブチャプター の章にて説明しております。

Mixer 8 - 15 スイッチ



クリックすると 'Monitors & Headphones' ビューのミキサーを 8 から 15 のオーディオチャンネルに拡張できます。

5.2 Control Panel タブ

3 つの Control Panel タブ（'Monitors & Headphones'、'Digital Outs'、'DAW'）には、入力セレクター、Synergy Core FX チェーン、ミキサーコントロール、ボリュームコントロール、Zen Go Synergy Core のアナログおよびデジタルオーディオ出力のピークメーターが含まれています。Control Panel アプリケーションのアクティビティの大部分はここで行われますので、ぜひこのサブチャプターをお読みください。



5.2.1 Monitors & Headphones タブ



'Monitors & Headphones' タブには2つの独立した15チャンネルのバーチャルミキサーが表示されます。1つはZen Go Synergy Coreのモニターおよびヘッドフォン1 (HP1) 出力にルーティングされ、左側の'Monitor/HP1' タブからアクセスできます。もう1つはセカンダリヘッドフォン出力 (HP2) にルーティングされており、左下の 'Headphones 2' タブからアクセスできます。

2台のミキサーはオーディオインプットを共有し、Synergy Core FXを適用していますが、パンコントロール、ボリュームフェーダー、Solo/Mute/Link コントロールはそれぞれ個別に設定されています。

上から下へ 'Monitors & Headphones' タブは以下のように構成されています。

Input セレクター



各ミキサーチャンネルの上には、それぞれのオーディオインプットセレクターがあります。インプットは色分けされています。インプットセレクターをクリックして選択してください。以下のインプットが用意されています。

PREAMP 1-2

インターフェイスのリアパネルにあるアナログ入力 A1 – A2。



EMU MIC 1 - 4	アナログインプット A1 - A2 に Antelope Audio Edge & Verge Mic Emulations を適用します。これにより、PREAMP 1-2 からの「ドライ」マイクオーディオと EMU MIC 1-2 からの「マイクエミュレーション」マイクオーディオを、異なるミキサーや DAW チャンネルでモニターし、レコーディングすることができます。
COMPUTER PLAY 1 - 8	DAW の出力 1 - 8。DAW の Output 1 - 8 にオーディオトラックをアサインし、インプットセレクターから同じ番号の COMPUTER PLAY インプットを選択します。このようにして、DAW のオーディオをインターフェイスの出力にルーティングし、Synergy Core FX で処理することができます。
S/PDIF IN 1 - 2	2 チャンネルの S/PDIF ステレオデジタルオーディオ入力。
MUTE	音声入力のミュート。
OSCILLATOR 1 - 2	Oscillators1 と 2 からのテスト信号。

AFX strip



ミキサーチャンネル 1 から 4 は Synergy Core FX を入力信号に適用します。チャンネル 1 から 4 の上にある AFX エリアの中をクリックして FX Rack を開きます。エリア内の 'BP' ボタンをクリックすると、そのチャンネルに適用されている全ての FX をバイパスすることができます。

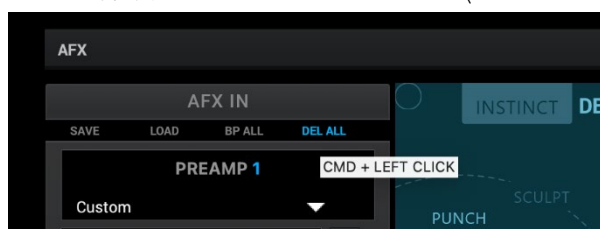


Synergy Core FX Rack



Synergy Core FX Rack には下記のような機能があります。

- 'SAVE' と 'LOAD' ボタンを使用して FX チェインを保存、呼び出します。
- 'BP ALL' ボタンをクリックすると、ラック内のすべての FX をバイパスします。再度クリックすると再度有効になります。
- 'DEL ALL' ボタンをクリックすると、FX ラックをクリアします。この機能はツールチップで保護されています：macOS (CMD + 左クリック) & Windows (Ctrl + 左クリック)



- オーディオ入力ラベルの下にあるドロップダウンメニューをクリックして、工場出荷時のプリセットを選択します。
- 'ADD NEW EFFECT' ボタンをクリックして Synergy Core FX を追加します。右側にグラフィックとパラメータが表示されます。
- 左側では FX をクリックしてドラッグして、エフェクトチェーンの順番を変更することができます。各エフェクトの横には 'BP' ボタンがあり、バイパスすることができます。
- Ctrl (Windows) または Command (Mac) を押したままドラッグして、エフェクトパラメータを小刻みに調整します。



ミキサー



このセクションでは、'Monitor/HP1' と 'Headphone 2' と題された 2 つの 15 チャンネルのバーチャルミキサーの各チャンネルのパンコントロール、ボリュームフェーダー、Solo/Mute/Link ボタンをご紹介します。デフォルトでは 8 チャンネルが表示されています。Function strip 3 の 'Mixer' スイッチをクリックして、8 チャンネルと 15 チャンネルの表示を切り替えます。これは 15 チャンネルビューでのミキサーの様子です。



アウトプットボリュームとメータリング



このセクションでは下記を含みます：

- モニター出力用の Dim & Mute ボタン付きアウトプットボリュームノブ。モニターアウトプットは、インターフェイス背面の 1/4 インチ TS/TRS および RCA アナログ出力と共用です。
- Zen Go Synergy Core のヘッドフォン 1 出力用の Dim および Mute ボタンを備えた出力ボリュームノブ（インターフェイスのフロントパネルに 'HP1' と表示されています）。
- バーチャルミキサー 'Monitor/HP1' の 2 チャンネルステレオアウトプットのピークメーター。

'Headphone 2' というタイトルの 2 番目のバーチャルミキサーを操作すると、このようなセ

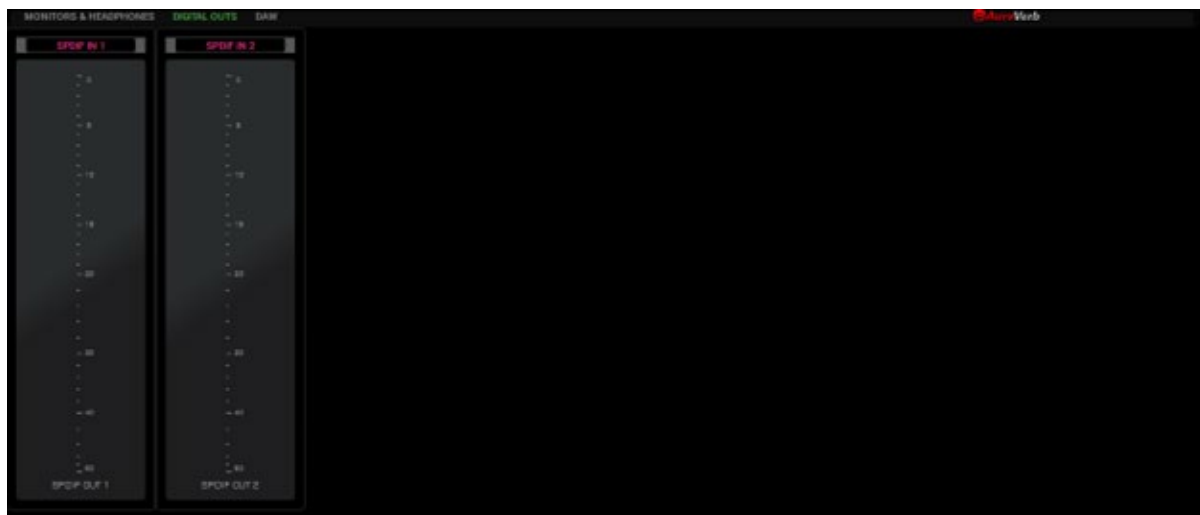


クッションが表示され、下記のような内容が含まれています。



- Zen Go Synergy Core のヘッドフォン 2 出力用の Dim および Mute ボタンを備えたアウトプットボリュームノブ（インターフェイスのフロントパネルに 'HP2' と表示されています）。
- バーチャルミキサー 'Headphones 2' の 2 チャンネルステレオアウトプットのピークメーターです。

5.2.2 Digital Outs タブ



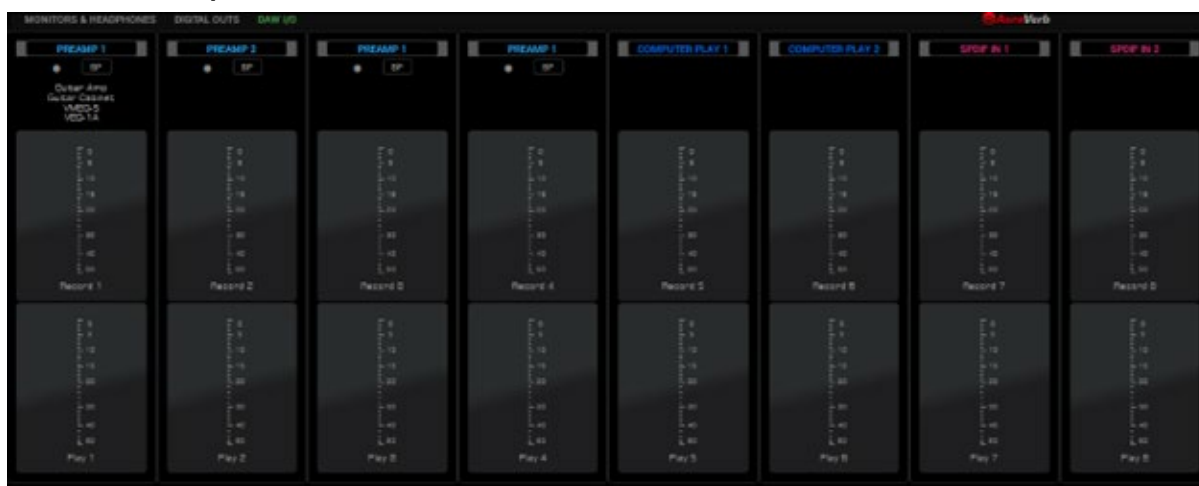
下記を含みます:

- デジタル出力チャンネル 'S/PDIF 1' と 'S/PDIF 2' の入力セレクトアです。クリックして Zen Go Synergy Core の S/PDIF デジタルオーディオアウトプットに供給するオーディオインプットを選択します。
- ピークメーターはアウトプット信号の強度を表示します。アウトプットボリュームコントロールがないことに注意してください。これは、AES/EBU、S/PDIF、ADAT



などのデジタルオーディオ伝送プロトコルでは、ボリュームコントロールが機能していないためです。そのため、デジタル出力信号が弱すぎたり強すぎたりする場合は、入力段でボリューム／ゲインを調整する必要があります。

5.2.3 DAW I/O タブ



'DAW I/O' タブでは DAW に出入りするオーディオの概要を確認することができます。動作原理を理解して、正確に構成を把握していただくためにこちらをよくお読みください。

'Monitors & Headphones' タブのバーチャルミキサーのチャンネル 1～8 にアサインされたインプットと Synergy Core FX は、DAW のインプット 1～8 にルーティングされます。DAW を開いて新しいトラックを作成し 'Input 1' からオーディオを録音するようにアサインすると、ミキサーのチャンネル 1 からオーディオが送られてきます。

どのミキサーの Channel 1? と聞かずにはいられないかもしれません。しかしながら、どちらのバーチャルミキサーもオーディオインプットと Synergy Core FX チェーンを共有しています。さらに重要なこととして、インプットと Synergy Core FX を DAW に取り込むだけで、バーチャルミキサーの出力は取り込んでいません。つまり、オーディオはバーチャルミキサーのパンやボリュームコントロールに到達する前に DAW にルーティングされるため、DAW でのレコーディングやミキシングの邪魔になることはありません。

DAW の中で作業をしている間は、バーチャルミキサーの出力ではなく、マスターバスの出力をモニター機器で聴きたいと思うでしょう。DAW のマスターバス出力とシステムオーディオ出力は、常に 'COMPUTER PLAY' インプット 1 と 2 にルーティングされています。



インプットセクターを使用して、'Monitors & Headphones' ビューで COMPUTER PLAY インプット 1 と 2 をミキサーチャンネルのペアにアサインし、残りのチャンネルを 'Monitor/HP1' ミキサーコントロールから消音することができます。サイレンシングされたチャンネルのオーディオは、DAW のマスターバスを介してのみ聴こえます。

残りの 'COMPUTER PLAY' インプットは DAW 出力 3-8 からオーディオを受信します。従って、DAW のオーディオトラックをインターフェイスのアナログとデジタル出力や Synergy Core FX に送信したい場合、このトラックを Output 3-8 にアサインし、コントロールパネルアプリケーションに切り替えて、'COMPUTER PLAY' インプットを任意の場所にアサインしてください。

'Monitors & Headphones' ビューのインプットセクターと AFX エリアは、'DAW I/O' ビューでミラーリングされていることに注意してください。これにより、各チャンネルのどのオーディオ入力を録音しているのか、Synergy Core FX が適用されているのか（もしあれば）を明確に確認することができ、ビューを切り替えることなく変更を加えることができます。

また、'DAW I/O' ビューのインプットセクターには 2 つの選択肢があります。これらの選択により、'Monitors & Headphones' ビューのバーチャルミキサーからの 2 チャンネルステレオ出力を DAW やストリーミングアプリケーションに取り込むことができます。

5.2.4 AuraVerb



AuraVerb は特別な新しいアプローチと独自のアルゴリズムを使用して、豊かさとカラーを提供します。



このリバーブは8つの異なるコントロールを備えており、その中には暗くなったテキストチャから明るくきらびやかな存在感のあるものまで、あらゆるものを作り出すための 'Color' パラメータも含まれています。さらに、受賞歴のあるオーディオエンジニアでありプロデューサーでもある Brian Vibberts 氏が作成した 24 種類のプリセットが用意されています。



AuraVerb はライブパフォーマンスやモニタリング用に設計されたセンドエフェクトです。ミキサーチャンネル（上の写真）の 'Send' ノブを回すと、そこに適用されたリバーブを聞くことができます。



'Returns' エリアのフェーダーをドラッグすると、モニターやヘッドフォン出力から AuraVerb を聞くことができます。

パラメーター

下記パラメーターは AuraVerb に含まれているものになります。

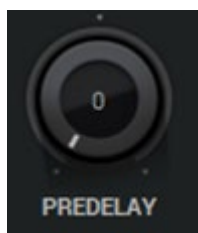
Color





Color コントロールでは、リバーブの全体的なトーンを調整することができます。0 に設定すると、生い茂った絨毯のような暗い空間になります。100 に設定すると、リバーブが最も明るくなり、例えばリードボーカルに「きらびやかさ」を加えることができます。

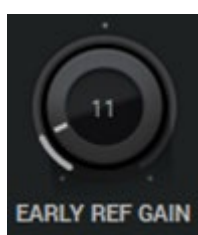
PreDelay



ほとんどのリバーブに共通して言えることですが、プリディレイを使用することで、ソースとリバーブの立ち上がりの間に少しのスペースを作ることができます。これは、リバーブの最初のサウンドに先行するディレイタイムの量をコントロールすることで実現します。このパラメータは、残響信号を未処理の信号よりも後の時間に配置するために使用します。

自然な設定は、環境の大きさに応じて 0 ～ 32 ミリ秒の範囲で設定します。曲のテンポや楽曲のドラマチックなタイミングに合わせてこのパラメータを微調整することで、ミックス内での残響の感じ方を設定することができます。

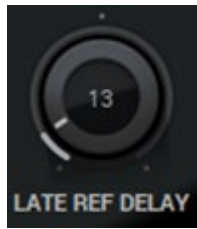
Early Reflection Gain



これは、すべてのアーリーリフレクションのためのリニアゲイン値です。これらの反射音は低レベルに設定するとダイレクトサウンドと知覚的にグループ化され、増加させるとトラックをきれいに厚くすることができます。



Late Reflection Delay



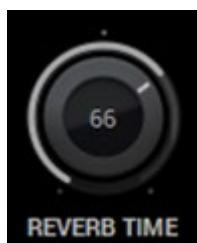
AuraVerb は仮想空間の側壁や天井からの反射エネルギーを計算します。Late Reflection Delay はこれらの反射のバーストの遅延をコントロールし、エコーを発生させたり、シミュレートされた音響空間の空間的な印象をサポートしたりします。

Richness



Richness はリバーブのエンベロープメントと減衰のニュアンスの複雑さをコントロールします。0 にするとダンピングが少なくなり、ディケイが明るくなります。この音は軽やかさや空気感がありますが、Richness を上げることで音に広がり感が加わり、低音域のリバーブタイムをスムーズに伸ばすことができます。

Reverb Time

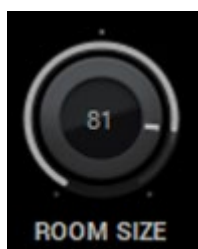


Reverb Time はディケイの長さをコントロールし、ルームサイズは仮想空間の寸法を増加させます。また、高域のコンテンツが多いソースでは、Richness と Color の影響を受けて、知覚されるディケイタイムも変化します。一般的に空間のサイズが大きくなればなるほど、Reverb Time も大きくなります。



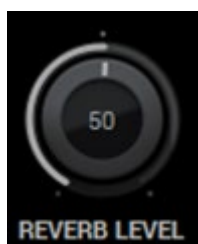
リバーブタイムを 50%に設定すると、どのような部屋のサイズでも自然なサウンドのテールが得られます。Room Size のパラメーターで Reverb Time を異常に高くしたり低くしたりすることで、面白い大空間や微妙なアンビエンスリバーブを作り出すことができます。

Room Size



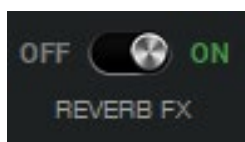
仮想空間のサイズを増加させます。

Reverb Level



これはリバーブの出力レベルコントロールです。AuraVerb の入力は Mixer 1 のチャンネルの Send ノブに割り当てられているため、Send コントロールからチャンネルの音量レベルを調整し、Reverb Level を使用してマスターバスのリバーブの量を調整することをお勧めします。

REVERB FX ON/OFF Switch



AuraVerb を有効または無効にします。



Preset Manager



プリセットマネージャーを使用すると、プリセットを保存およびロードできます。ドロップダウンメニューを使用して、プリセットを選択します。「S」ボタンを使用してプリセットを保存します。「L」ボタンを使用してプリセットをロードします。

6.0 afx2daw

afx2daw は、Synergy Core FX を DAW のインサートとして使用するためのブリッジプラグインです。すべての Synergy Core FX 処理および I/O オーディオストリーミングアクティビティは、インターフェイスの DSP および FPGA プロセッサによって処理されます。

afx2daw は、DAW の Synergy Core FX オートメーションの追加ボーナスにより、より迅速なワークフローを提供します。これは、他の方法では利用できません。

afx2daw は Thunderbolt™を介した Mac、または Windows コンピューターでのみサポートされています。

afx2daw の詳細と購入については [ここをクリック](#) してください。

afx2daw のセットアップ

afx2daw を購入すると、Antelope Audio ユーザーアカウントに自動的に割り当てられます。キャンペーン等で無償で入手した場合は、ライセンスの有無を[アカウントダッシュボード](#)の「My Software」タブより確認いただけます。

ご利用するために、以下の手順に従ってください。



1. Antelope Launcher を開き、ご自身のアカウントでログインしてください。
2. 「Plug-ins」 タブをクリックしてください。「afx2daw」の最新バージョンをダウンロードしてインストールしてください。
3. 「Devices」タブより、afx2daw を使いたいデバイスの下で、「Manage Device」のボタンをクリックしてください。
4. 「Register device or assign features」より、afx2daw、またはそれを含むバンドルをインターフェイスとペアできます。
5. お好きな DAW アプリケーションで、プラグインメニューより afx2daw をモノラル、またはステレオプラグインとしてロードできます。

プラグイン画面より、下記のような設定がご利用できます。

- 「ADD NEW EFFECT」メニューより、FX をバーチャルラックに追加できます。
- 「SAVE」と「LOAD」ボタンで FX チェーンを保存、または呼び出しできます。
- 「BP ALL」と「DEL ALL」ボタンで FX をバイパス、またはクリアできます。「DEL ALL」ボタンは、Cmd/Ctrl+クリックで動作します。
- ボタン下のドロップダウンメニューよりプリセットをロードできます。
- 各エフェクトの隣、「BP」ボタンでバイパスできます。
- Cmd/Ctrl+クリックで各 FX パラメーターを微調整できます。

7.0 製品仕様

ANALOG

Analog Inputs

2 × Mic / Line Inputs / Hi-Z Inputs

48V phantom power and independent preamp gain for each input

Analog Outputs

1 × Primary Monitor Out on TRS 1/4 Jacks, +20 dBu max, signal balanced, DC-coupled

1 × Secondary Monitor Out on RCA mirrored from the primary out

2 × Stereo Headphone Outputs



Mic Preamp

EIN: -128 dBu (A-weighted)

Dynamic Range: -121 dB (A-weighted)

THD: -106 dB

Max input level: +20 dBu

Max Gain: 65 dB

Monitor

Max output level +20 dBu

D/A Monitor Converter

Dynamic Range: 127 dB (A-Weighed)

THD + N: -115 dB

A/D Converter

Dynamic Range: 120 dB

THD + N: -100 dB

DIGITAL

Digital Inputs

1 × S/PDIF

Digital Outputs

1 × S/PDIF

Computer I/O for Zen Go USB

1 × USB-C (compatible with USB Type A) 2.0

Computer I/O for Zen Go Thunderbolt

1 x Thunderbolt 3 port

Power

Bus-powered through USB-C or Thunderbolt



Zen Go USB only

Additional USB-C connector available for power only. Supports reverse charging.

CLOCKING

Clocking System

4th Generation Acoustically Focused Clocking (AFC™)

64-bit DDS

Sample Rates (kHz)

44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192

Physical Dimensions:

198 x 117 x 57.5 mm

Weight: 700 g (approx.)

1.77" IPS Screen on a 2.5" Display Filter

8.0 カスタマーサポート情報

Antelope Audio のカスタマーサポートは、以下の手段で受け付けています。

オンライン

<https://jp.antelopeaudio.com/support/contact-us/>にアクセスしてください。

その他のリソース

- Antelope Audio の [YouTube チャンネル](#)では、様々なチュートリアルビデオやエンダーサーのコンテンツを公開しております。
- カスタマーサポートの [Knowledge Base](#) は、トラブルシューティングの情報、よくある質問に対する回答、Antelope のノウハウなど、役立つ情報をこちらでまとめて掲載しております。



お手持ちの Antelope Audio 製品に不具合がある場合どうしたらよいですか？

ご自身で解決できない場合は、ハードウェアに問題があるかどうかを確認させていただきますので、弊社までご連絡ください。修理が必要と判断した場合、その手順をご案内いたします。返品が必要な場合は、RMA ナンバーを発行し、手続きを開始いたします。

RMA 番号とは何ですか？

RMA (Return Merchandise Authorization) 番号の発行は、工場でのサービスまたは修理手順に必要なものです。RMA 番号の発行を受けずにデバイスをお送りいただくと、受付されずにデバイスが返送され、修理を受けられなくなるのでご注意ください。

RMA 番号はどのように取得するのですか？

Antelope Audio のカスタマーサポートチームが RMA 番号の発行を担当しています。

<https://jp.antelopeaudio.com/support/contact-us/> にアクセスし、連絡を取ってください。

RMA が発行された後、手続き方法が記載されたメールを送信いたします。

RMA 発送に関する情報

返品する製品と一緒に、お客様のフルネーム、配送先住所、弊社テクニカルサポートチームが発行した RMA 番号、技術的な問題に関する簡単な情報を記載した手紙を同封してください。

可能であれば、オリジナルの箱を使用してください。使い古された箱では、Antelope Audio 本社に届くまでに製品を十分に保護できない可能性があります。衝撃、振動、様々な裂け目や傷から守るために、ユニットと箱の壁の間に何層ものクッション材を追加してください。

輸送中に元の出荷ラベルが判読できなくなる場合に備えて、ラベルや古い出荷印はすべて取り除き、箱の内側に送付先住所を追加するようにしてください。

送料は製品の所有者が負担します。Antelope Audio は通関手数料を負担いたしません。



ご希望の宅配便をご利用になることをお勧めします。パッケージには実際の価値に見合った保険がかけられ、壊れやすいとマークされ、追跡番号が提供される必要があります。通常のメール便の利用はお勧めしません。

すべての発送書類に、Antelope Audio のテクニカルサポートから発行された RMA 番号を忘れずに記入してください。

Antelope Audio は、Antelope Audio 本社への配送途中での紛失や破損など、未配送のパッケージについては責任を負いかねますのでご了承ください。損害賠償請求については、選択した配送業者へお問い合わせください。

Antelope Audio は、梱包不良による製品破損の修理費用については一切負担いたしません。

9.0 LIMITED WARRANTY POLICY

これは Antelope Audio ブランドのハードウェア製品（以下、「製品」）を Antelope Audio の正規販売店から購入したエンドユーザーに提供される、譲渡不可能な任意の限定製品保証です。

購入国または異なる場合は居住国の消費者保護法または規制の対象となるお客様にとって、Antelope Audio の限定保証によって与えられる利益は、そのような消費者保護法、規制によって招集される権利 および救済手段に追加されるものであり、代わりになるものではなく、消費者法から生じる購入者の権利を除外、制限、または停止するものではありません。消費者は Antelope Audio 限定保証に基づく サービスを請求するか、消費者法上の権利に基づく サービスを請求するかを選択する権利があります。

Antelope Audio 限定保証に基づいて行われる全てのクレームは、この保証書に記載されている条件に準拠します。

保証範囲



Antelope Audio はエンドユーザーが Antelope Audio の正規販売店から本製品を購入した日から 1 年 間、本製品に素材および製造上の欠陥がないことを保証します。

適用される地域の法律で明確に禁止されている場合を除き、この保証は最初の購入者に限定され、譲渡 することはできません。この保証はお客様に特定の法的権利を提供し、お客様は地域の法律によって異なる追加の権利を有する場合があります。

一般的にこの保証は、Antelope Audio のハードウェア製品が保証期間中、公表された技術仕様にに基づき、データシートで指定されたとおりに、意図された動作環境で動作することを意味します。

このバージョンの保証は 2018 年 1 月 1 日以降に購入された製品に適用されます。それ以前のバージョンの Antelope Audio 限定保証については、カスタマーサービスにお問い合わせください。

限定的な工場出荷時の再生品（B ストック）保証

Antelope Audio は「B-ストック、工場再生品、またはオープンボックス」として販売された製品について、材料の欠陥（製品の説明に別段の記載がある場合を除く）および製造上の欠陥がないことを保証 します。正規販売店または Antelope Audio から直接購入された製品のみがこの保証の対象となります。

工場出荷時の再生品（B ストック）の限定保証は、地域の規制で別段の定めがない限り、製品の購入日から 6 ヶ月間有効です。

ここに記載されているすべての保証条件は、特に明記されていない限り、B-ストック保証にも適用され ます。

救済措置

Antelope Audio 製品がその公表された技術仕様に沿って動作していない場合の Antelope Audio の全責任とお客様の唯一の救済方法は、Antelope Audio の裁量に委ねられます：



1) Antelope Audio の費用負担で、正常に動作する新品または新品同様の再生部品を用いて製品を修理すること。

2) Antelope Audio の費用負担で、製品を新品または新品同様の再生部品を使用した同等の機能を持つ製品と交換すること。

3) 支払った金額を返金する。Antelope Audio が支払済みの代金を返金することを決定した場合、Antelope Audio は支払済みの製品の代金から製品に生じた損害を差し引くことができます。保証期間満了後 14 日以内に (i) Antelope Audio が不適合の書面による通知を受け取り、(ii) Antelope Audio の書面による承認後、顧客が不適合製品を指定の場所に返却し、(iii) Antelope Audio が製品は不適合であり、その不適合が以下に指定される除外事項の結果ではないと判断した場合。

これらの保証義務はハードウェアを購入した当初の場所、または Antelope Audio が指示した別の場所に、販売時のレシートを添付して返却することを条件とします。製品を返送する際の送料および手数料はお客様が負担する必要があります。製品の返品に関しては、その他の適用される関税、関税、税金、その他の手数料を支払う必要がある場合があります。

修理または交換された製品は、当初の保証期間の残りの期間保証されます。

生産終了した製品

旧式または製造中止になった製品は、修理可能であれば同じ製品と交換します。Antelope Audio がお客様の旧式または製造中止の製品を同じ製品と交換できない場合は、Antelope Audio は独自の判断で旧式 または製造中止の製品を同様の機能と容量を持つ製品と交換します。

除外事項

本保証は次のいずれかに起因する問題や損害を補償するものではありません。(i) 通常の使用に伴う摩耗や損傷 (ii) いかなる、改造、乱用、事故、分解、誤用、誤使用、過失、天災、事故。(iii) Antelope Audio または Antelope Audio が保証作業を許可した者以外による不正な修理または修理の試み。(iv) 不適切な 操作、保守、設置（付属の製品説明書に従っていない



使用を含む) (v) 不適切な電圧供給への接続 (vi) Antelope Audio が提供していない消耗品やスペアパーツの使用 (現地の法律で禁止されている場合を除く) (vii) 製品の素材や製造上の欠陥に関係しないその他の原因。

この保証は誤用、不注意、事故、改造が行われた製品、あるいは通常のテスト条件でテストできないようなはんだ付けや改造が行われた製品には適用されません。

(i) 偽造品、すなわち、Antelope Audio またはその認定製造パートナーによって製造されていないと Antelope Audio が独自の裁量で判断した製品、(ii) Antelope Audio の認定ディーラーまたは再販業者ではない個人または団体から購入した製品、(iii) 現地の法律で認められている範囲内で、「現状のまま」または「すべての欠陥を含む」状態で販売された製品は対象外です。

この保証は製造者のラベル、シリアル番号、日付スタンプ、保証ステッカーが製品から変更または除去された場合には無効となります。

責任の制限

Antelope Audio は損害の可能性について事前に知らされていたとしても、利益、収益、データの損失 (直接的、間接的を問わない)、またはお客様の製品に対する明示的または黙示的な保証の不履行による商業的損失を含む、特別、偶発的、間接的、または結果的な損害について責任を負いません。地域の法律によっては、特別な間接的、偶発的、または結果的な損害の除外または制限を認めていない場合がありますので、この制限または除外はお客様の管轄区域では適用されません。Antelope Audio はその製品に関連したその他の責任を負うことはなく、また他者に負わせることもありません。

データ復元

Antelope Audio のストレージデバイスを使用してデータが失われた場合、Antelope Audio は失われた可能性のあるデータのバックアップやリカバリーの責任を負いません。

その他の保証について



Antelope Audio の従業員、販売店、再販業者、またはその他の代理人は、この保証の修正、延長、または追加を行う権限はありません。

保証請求の方法

有効な保証請求は購入した店舗で手続きを行ってください。また、製品を購入された小売店に直接返品規定をご確認ください。購入先で処理できない保証請求は、Antelope Audio に直接ご連絡ください。当社のカスタマーサービスの連絡先は、Web サイトまたは製品に同梱されているマニュアルに記載されています。

製品の返品について

Antelope Audio 製品を修理または交換のために返品する必要がある場合には、Antelope Audio は返品承認番号（RMA#）と返品方法を提供します。Antelope Audio の事前の承認なしに製品を返品しないでください。有効な RMA# を持たずに返品された製品は拒否され、差出人の負担で差出人に返送されます。受領時のトラブルを避けるため、RMA# をパッケージの外側にはっきりと記入し、RMA 確認メールのコピーをパッケージ内に入れてください。

保証期間中の製品については、お客様の国に在庫がある場合に限り、当社の判断により一時的な代替品を提供する場合があります。一時的な交換ユニットを要求するには、Antelope Audio が欠陥品を受け取る前に、新しい交換ユニットの発送を確保するため、有効なクレジットカードを提供する必要があります。

返品承認番号（RMA#）のリクエスト

以下の手順で RMA ナンバーを取得してください。

(i) エンドユーザーのお客様は、support.antelopeaudio.com からオンラインでクレームを提出してください。企業間取引(B2B)/Antelope Audio の直接取引のお客様は、以下のメールアドレスにご連絡ください。 techsupport@antelopeaudio.com

(ii) RMA 処理には有効な購入証明書が必要です（レシート、請求書など）。Antelope Audio はクレーム提出日から 2 営業日以内に RMA 番号をお知らせします



RMA 返送先住所

当社は世界各地に複数の RMA 受取拠点を持っています。RMA 確認書には、お客様が RMA パッケージを送付する際に使用しなければならない特定の返送先住所が明記されています。承認されていない場所で受け取ったパッケージは、受け取りを拒否され、送信者の費用負担で送信者に返送されることがあります。

輸送中に紛失または破損した製品

返品のための梱包には オリジナルの梱包材を使用してください。オリジナルの梱包材が入手できない場合は、製品を同等以上に保護するような素材を使用してください。外見上の損傷があったり、梱包が不十分な状態で到着した荷物はすべて受け取りを拒否され、差出人の費用負担で差出人に返送されます。当社は RMA 受領場所への配送中に発生した損害や、製品の紛失・盗難については責任を負いません。

会社情報

Antelope Audio はブルガリア共和国の法律に基づいて登録された Elektrosfera Ltd. (UIN: 131052590) が事業を行う際の商号であり、世界的に知られています。この文書の中で Antelope Audio という商号が使用されている場合は、Elektrosfera Ltd.を指すものとします。運営住所：Tsarigradsko Shose Blvd., 7 km, Building of BIC IZOT, floor 6, Mladost region, Sofia, Bulgaria.

契約のいずれかの条項が違法または執行不能であると判断された場合、その条項は本保証から分離されるものとし、残りの条項の合法性または執行可能性は影響を受けないものとします。